



学校だより

令和5年11月17日
市川市立第六中学校
校長 植木 昭貴

【学校司書の仕事】



最近、私は読書にはまっています。私たちの情報収集の手段は、スマートフォンやパソコン等からが中心となってきていますが、そのような中で、日々の忙しさから少しだけ離れ、(できれば)落ち着いた環境の中でじっくり思いをめぐらせながら本を読む時間は、私にとって心を元気に、豊かにしてくれる時間となっています。



休みの日などに本屋や図書館に行くことも増えてきましたが、特に図書館に入ると、時がゆっくり流れているように感じるとともに、「いろいろなことに触れてみたい、知ってみたい。」という気持ちになります。

本校にも図書館(学校図書館)があります。ここで質問ですが、本校の図書館には、何冊の本があるかわかりますか?(答えは学校HPの「六中情報」6/14の記事をご覧ください)今回は、それらの本を管理し、本校の図書館を運営してくれている学校司書の湯浅恵子さんにインタビューしてみました。

1. 学校司書の主な役割は？

→ 学校図書館の環境整備、蔵書管理(蔵書点検・購入本の選定)、読書教育の推進、調べ学習の支援、ネットワーク図書(他校への本の貸出しや他校からの借受け)への対応、図書委員会との連携、各種報告(蔵書管理状況・利用状況・各集計結果)等があります。



2. 一日の主な流れは？

→ 「図書館管理システム」(PC)を立ち上げ、ネットワーク図書の確認を行い該当があれば処理をします。本を活用する調べ学習がある日は、その学習内容に関係した本の準備等を行います。昼休みや放課後は図書館を開放し、図書委員とともに本の貸出や返却作業を行います。他の時間は、ネットワーク図書の搬出入作業や新刊本の受入れ作業、書架整理、掲示物等学校図書館の環境整備などを行っています。



3. やりがいを感じるのはどのような時ですか？

→ たくさんの生徒が学校図書館に来てくれた時、学習支援で準備した本が役立った時や良い成果が認められた時、生徒とかかわっていく中で本や読書に興味を持ってもらえた時です。

4. 大変と感じるのはどのような時ですか？

→ ネットワーク図書の搬出入作業や管理です。多いときは80~100冊前後あり、加えて複数の教科(授業)にまたがるときは本の管理や返却時の対応に苦勞することがあります。また、新刊本を購入する際、限られた予算の中で、たくさんの候補の中からどの本を選んだらいいか悩むことが多いです。

5. 仕事で心掛けていることは？

→ 来館してくれた生徒に「また来たい」と思ってもらえるよう、図書館の環境を整備したり、来館者を笑顔で迎えたりするよう心がけています。また、「調べ学習」の依頼を受けたときは、教科の先生と事前に打合せを行い、目的に合う本を多く揃えられるようにしています。

6. 読書や図書館の魅力を教えてください

→ <読書の魅力>

物語の情景、登場人物の表情や感情などが自由に想像できる、たくさんの表現や言葉に触れることで、微妙な感情や思いなど、表現の幅が広がる、知識の宝庫となる、心の栄養となることが挙げられます。

<図書館の魅力>

物語以外にも様々な分類の本があり、興味の有無に限らずその場で試しに手に取って読んでみるができます。意外な発見や出会いがあるかもしれません。



学校司書 湯浅さん

7. 生徒に一言お願いします

→ 皆さんが図書室に来てくれることを心よりお待ちしております。

皆さんの中には読書と縁が遠い人もいます(かつての私もそうでした)。10月27日の読売新聞には、「1か月のうち、紙の本と電子書籍を合わせて1冊も本を読んでいないは53%にのぼる」といった記事もありました。私自身も情報収集の手段はスマートフォンやパソコンから得るものが多いですが、簡単に得た情報は忘れるのも早く、やはり心に深く刻まれたり、知識となったり、自分の糧となったりするような影響を与えてくれる情報は、本から得られたものが多いと感じています。10月27日～11月23日は「秋の読書推進月間」です。この機会に図書館を訪れたり読書に親しんでみたりしてはいかがでしょうか。3年生の皆さんも、受験勉強の合間に少しずつでも本を読むことで、気分転換になったり心が整理されたりするかもしれません。読書に親しみ、皆さんの人生に素晴らしい影響を及ぼす良い本に出会えるといいですね。

最後に、「読書にまつわる格言・名言」をいくつか紹介します。

- ・「良い本は、私の人生におけるイベントである。」(スタンダール フランスの小説家)
- ・「本のない部屋は、魂のない身体のようなものだ。」(マルクス・トゥッリウス・キケロ 古代ローマの政治家)
- ・「私は、自分がこれまでに読んだあらゆるものの一部である。」(セオドア・ルーズベルト 元アメリカの大統領)
- ・「読書ほど安い娯楽も、長続きする喜びもない。」(メアリー・ウォートリー・モンタギュー イギリスの著述家)
- ・「読書は、自分の頭ではなく他人の頭で考えるのと同じである。」(ショーペンハウアー ドイツの哲学者)
- ・「本をよく読むことで自分を成長させていきなさい。本は著者がとても苦勞して身に着けてきたことを、たやすく手に入れさせてくれるのだ。」(ソクラテス 古代ギリシアの哲学者)
- ・「良書を初めて読むときは、新しい友を得たようである。前に精読した書物を読み直すときは、級友に会うのと似ている。」(オリバー・ゴールドスミス イギリスの詩人・小説家)
- ・「今日の読書こそ、真の学問である。」(吉田松陰 幕末の長州藩士)
- ・「今日の読書家は、明日のリーダーである。」(マーガレット・フラウ アメリカのジャーナリスト)
- ・「書物は我々の内なる凍った海のための斧なのだ。」(フランツ・カフカ チェコ出身の小説家)

